

短命県脱却 方策探る

弘前で弘大COIサミット 産学官の500人が意見交換



産学官民の関係者が意見交換したパネルディスカッション。

弘前大学、県、弘前市は9日、弘前市のアートホテル弘前シティで「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット」を開いた。県内外から産学官の関係者や市民ら約500人が一堂に会し、講演や討議を通じて本県の短命県脱却や健康寿命延伸について考えた。

COIは2013年にスタートした文部科学省の大型研究開発プロジェクト。弘大COIは、地域住民の大規模な健診データを活用した健康増進モデル構築に取り組んでいる。

パネルディスカッションでは、COIに参画する企業担当者や各地の研究者ら18人が登壇。健診データの解析を行っている京大大学院医学研究科の奥野恭史教授は「こんなにすごいデータはいまだかつてない。(健康指標につながる)仮説を山ほど出すポテンシャルがある」と述べた。

弘大COI拠点長の中路重之・弘大学院医学研究科特任教授は、健康診断の結果を即日示して個々のデータを基に健康教育を行う「啓発型健診」の意義を強調。

「個人が勉強しなければ行動変容は起こせないし、死亡率も減らせないと話した。」

サミットではほかに、食品大手カゴメの寺田直行社長らが講演。健診データの解析状況や参画企業による健康づくりの取り組み内容なども報告された。

(太田佳希)